

# 知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校  
校長室だより  
校長 白田 敏幸

## これからの教育で大切にしたいこと

日本の教育のすばらしさは、世界でも評価されている。知徳体をバランスよく身に付ける**全人的教育**〈知識や技能の習得だけでなく、人間性のあらゆる側面（感情、道徳、芸術、健康など）を調和的に発達させる教育〉である。**決められたことを決められた通りにやる力を養うことが日本教育の得意技**であった。その「訓練」ともいえる教育は、小学校入学した時から始まっている。

しかし、予測がつかないこれからの社会では、決まったことがあるわけではないし、誰かが決めてくれるとも限らない。自分自身で決め、判断して動く必要がある。決められた通りにやるだけの人間は、今後、生きて行くことが難しくなることが予測される。

つまり、会社や社会で活躍できるのは、習ったことがなくても、自分が身に付けた知識や技能を使って、自分で創意工夫できる人間であると考えます。これからの社会は、**これまでにない斬新なアイデアを生み出す人材を必要**としてくる。（すでに、そうなっているのかもしれない。）

冷蔵庫にいろいろな食材をパンパンに詰め込んでいるのが**従来の学校**である。いわゆる「詰め込み式」の教育である。そして、その材料を使った特定の料理の作り方を教員が子供たちに伝える。違う料理を作ることを要求すると、「習っていません。」「習っていないからできません。」そう答えるしかない。

しかし、これから必要とされるのは、「習ったことがなくてもおいしい料理」を作る力である。冷蔵庫の中にある材料で足りなければ、足りないものを調達して作る力が必要とされる。いわゆる「**自ら学ぶ力**」である。

では、こういった力をつけていくためには、どのような教育が必要になってくるのだろうか。南部小学校として取り組んでいきたいことの一部を下記にお示ししたい。

### ①子供の力を信じ、自己決定させる場を数多く設定する。

- ・「あなたはどうしたいの?」という問いかけを大事にする。
- ・発達段階に応じて選択肢を示し、段階を経て自己決定できるようにする。
- ・「どんな子供でも学びたいと思っている。」ということをお忘れなく。

### ②子供の「失敗する機会」を奪わない。

- ・失敗が許される環境をつくる。そのためにも、大人も失敗が許される環境を**大人がつくっていく。(お互いを批判し合わない南部小)**
- ・人間は「失敗から学ぶ」という本質をお忘れなく。
- ・評価のための教育ではないことの共通理解（評価することが目的になると失敗することに憶病になってしまう。）

### ③初等教育として必要な基礎的知識・技能をしっかり身に付けさせる。

- ・自分で考えるために必要な知識・技能を習得させる。
- ・「知識・技能を教える」こと以上に、「**自ら学ぶ力**」を身に付けさせることを大切にする。⇒授業改善や宿題への取り組みせ方を工夫していく。